

五斗畑と八石田

《江花》

上江花地内に通称「五斗畑と八石田」と呼ばれているところがある。

その昔、上江花の住人、遠藤太郎兵衛という者が、小用で滝新田村に出かけての帰り道、藤沼神社の前をとおりがかったところ、シャゲシャゲシャゲという馬の鈴の音が聞こえてきた。その日は雨がしんしん降る夜であった。

不思議なこともあるものだ、と、太郎兵衛がひよいと後を振り返ってみると、烏帽子、直垂姿で馬に乗った貴人が多くの家来をつれて現われた。

とつさのことで、びっくりした太郎兵衛は「あなたさまは何様でありますか」とたつぷらになつてたずねた。すると、「私は自現太郎だが、してお前の名は何と申すか」とたずねられた。太郎兵衛は、「はい、私は上江花の百姓太郎兵衛と申します。けつしてあやしい者ではありません」と答えた。こんな話のやりとりをしていると、藤沼神社の境内の方がびかっと明るくなつたと思ふ間もなく、白装束の美しい姫様が現われ出でて、「お前に頼みがある。今夜私どもにあつたことをだれにも話さないでほしい。もし約束してくれるなら、お前の望む宝物を授けよう」と言われた。

太郎兵衛は返答にこまっていたが、姫は「お前は子どもが大勢なのだから、米が存分とれる田と穀物が充分とれる畑を与えよう。どのくらいとればよいか申してみよ」と言う。太郎兵衛は、「はい、米は八石ぐらい大豆、小豆の穀物は五斗ぐらいあれば存分でございます」と答えた。